

令和 6 年度 第 2 回健やかほうふ 2 1 計画(第二次)推進委員会会議録要旨

1 日時	令和 7 年 1 月 3 0 日 (木) 午後 2 時から午後 3 時 3 0 分
2 場所	防府市保健センター
3 出席者	【委員】 山本 (一) 委員、竹田津委員、山内委員、藤井委員、吉富委員、長尾委員、秋里委員、山本 (憲) 委員、西丸委員、島田委員、椿委員、野首委員、久門委員、松野委員、平川委員、古谷委員、目代委員、岡田委員、大本委員、古賀委員、横田委員、山野上委員 ※欠席：末廣委員 (事務局) 石丸 (保健こども部長)、尾中 (保健こども部次長)、山崎 (健康増進課長)、島 (技術補佐)、小野 (こども相談支援課主幹)、健康増進課：永谷、渡邊、坂本、三好 こども相談支援課：白石 高齢福祉課：大藤
4 傍聴者	1 名
5 議題	(1) 「健やかほうふ 2 1 計画 (第二次) 評価のためのアンケート結果等について (2) 健やかほうふ 2 1 計画 (第三次) 策定について (3) 意見交換 「みんなでつながり思いやる健やかなまち“ほうふ”」の実現に向けて (4) その他

事前配布資料の確認

次第「1 開会」「2 保健こども部長 挨拶」「4 閉会」は記載省略

3 議事

- (1) 「健やかほうふ 2 1 計画 (第二次)」評価のためのアンケート結果等について

【事務局説明】

「健やかほうふ 2 1 計画 (第二次)」評価のためのアンケート結果について

(資料 1)、分野別目標に関する市民の現状(資料 2)に基づいて説明。

【議長】

事務局からの説明について、各団体からご意見やご感想をいただきたい。

【A委員】

市歯科医師会では県歯科医師会と協力し、積極的に歯科検診事業を推進している。来年度も更に取り組んでいきたい。資料 2 の「過去 1 年間に歯科検診をした人の割合」の結果からわかるように、歯科検診受診割合は 20 代 30 代がどうしても低くなる。その世代の人達は、何の症状もないから受診しないという人が多いと思う。改善のために、小中高生に対する情報発信を工夫すると良いのではないかと思う。

【B委員】

保育園では、園児は栄養計算をされた昼食を食べている。しかし、朝食については食べてきていない子がいるので、園に持参させても良いことにしている。するとラップに包んだおにぎりを持って来て食べる子もいるが、それでも昼までもたず、少し元気がなくなる子どもも何人かいる現状があり、課題である。

子育て支援の面では、地域で安心して子育てができるように保育園でも色々な取り組みを行っている。先日は、子育て支援サークルに来ている保護者を対象に、防災訓練を行った。これからも様々な内容で実施したいので、ぜひ良いアイデアがあったら教えていただきたい。

【C委員】

1 つ事務局に質問したい。資料 2 の事務局の説明の中で、「過去 1 年間に歯科検診を受診した人の割合」のところで、「妊婦に渡す資料を工夫して歯科検診の受診率が伸びた」と説明された。実際にどのような資料を使ったかを教えて欲しい。

【こども相談支援課】

妊娠届を提出された際に、妊娠期の経過や行うべきことを分かりやすく示した防府市子育て応援ガイド(妊娠期版)を渡している。ガイドには母体の変化や胎児の成長、妊婦健診の頻度、ご自身とご家族でできること等について掲載しており、その一つとして“歯科検診を受ける”ことも入れており、助産師や保健師から確実に受診勧奨を行うようにしている。

【C委員】

うちの幼稚園では、歯磨き指導を給食の後に行っている。また、2～3年前から年に1回か2回、Zoomを使って他の幼稚園や保育園の園児と一緒に歯磨きをして意識を高めるような取り組みを行っている。この時園児に「他の園のお友達も頑張っているから皆も頑張ろうね。」と働きかけている。この活動は園児にも人気なので、これからも継続したいと思う。

【D委員】

J Aでは、食育として小学校1年生から6年生までの親子を対象に、1年間を通じて収穫体験等行う子ども農園を行った。今年度は35名の参加があった。市内の農家に伺い、様々な収穫体験をさせてもらっている。トマト、ブドウ、みかん、サツマイモ等の収穫体験をした後、食べてもらっている。

資料2の説明から、「主食・主菜・副菜のそろった食事を1日2回以上食べる日が週に6日以上ある人の割合」が低いことを知り、来年度は収穫した野菜や果物の栄養についても意識して伝えてきたいと感じた。

【E委員】

自治会連合会として、資料2の説明から地域のつながりの評価が悪化していることが気になった。実際、地域とのつながりがだんだん希薄化していると思う。子育て世代から、「役員をやりたくないから地域の団体に入らない。」等の声を聞く。いざという時など総合的に考えると、地域連携やつながりは非常に大切だと思うので、団体としてつながり作りに頑張って取り組みたいと思う。

(2) 健やかほうふ21計画(第3次)策定について

【事務局説明】

健やかほうふ21計画推進委員会設置要綱(資料3)、健やかほうふ21計画(第3次)策定について(資料4)(資料5)に基づいて説明。

(3) 意見交換

【議長】

事務局からの説明を受けて、意見交換をお願いしたい。

【F委員】

薬剤師会ではたばこ対策に取り組んでおり、資料 2 の説明から、「将来、たばこを吸いたいと思いますか」のアンケート項目に「はい」と答えた小中高生が減っていることは良かったと思う。しかし、資料 1 を見ると喫煙の項目全体の目標達成率はよくなかったのもので、今後も取組を推進していきたい。たばこに関して数値が改善しているところは、事務局の説明でも言われていたが、改正健康増進法が施行されたことや、社会全体が禁煙ブームになっていることの影響も大きいのではないかなと思う。

資料 4 の第 3 次計画の柱に取り入れられるアルコールに関しては、まだまだ対策は今からだと思うが、薬剤師会としても積極的に対策に関わっていききたいと思う。

【G 委員】

第 3 次計画の説明を聞き、防府市で年間こんなに自殺者がいるということに驚いた。第 3 次計画では新たに自殺対策計画も入れられること、目標が自殺者をゼロにするということに対しても、大きく賛同したいと思う。心の健康は健康の中でも大きなテーマなので、市自殺対策計画はこの健やかほうふ 2 1 計画の中に組み込まれるべきだろうと思った。

また、計画の身体活動・運動の分野にある「やまぐち健幸アプリの登録者数、企業登録数」についてだが、当社でもやまぐち健幸アプリに社を挙げて取り組んでいる。昨年 10 月から 12 月くらいまでの間で、社内でグループを組んで健幸アプリで日々の歩数を競い、上位 3 チームに会社から報奨金を出すというイベントを行い、大変盛り上がった。このアプリについてやイベントへの参加状況を社内で話すことで、計画の中にもある人とのつながりとか地域のつながりなどが深まるのも感じる。資料 1 の P 4 「やまぐち健幸アプリの登録者数」は目標を達成していたが、「企業登録数」は目標に達していない。やまぐち健幸アプリを利用している企業として、市内の他の企業への利用促進にも力を注いでいきたい。

【H 委員】

企業活動において、今や健康経営は大切な取組であるため、啓蒙啓発をしている。

また、資料 4 で示された、第 3 次計画の取組みの展開 8 つの柱の中に入れられたアルコールに関しては、以前は百薬の長といわれていたので、適量であれば健康になるイメージだったが、最近はそうではないという説も聞くようになり、個人的には気をつけるようになった。正しい知識を普及することが大切だと思う。

【I 委員】

リハビリテーション専門職協議会としては、市高齢福祉課と一緒に高齢者の通いの場支援などを行っている。また今年度は市健康増進課が行う幸せますケンシン祭りにもブースを出した。参加者が多く、私たちも参加した市民から色々な御意見を聞くことができ、勉強になった。

自分が所属している山口県作業療法士会では、新たに地域保健総合推進事業委員会を起ち上げた。企業の健康経営など、介護予防よりもっと手前の健康づくりに寄与していきたいと考えているので、この防府市から取り組んで発信していけることを増やしていきたい。

また、自分は訪問看護ステーションで働いていて自殺未遂をした人に訪問しているので、自殺対策計画が入る第三次計画の推進にも積極的に取り組んでいきたい。その他、第三次の計画に関しては、階段ステッカーのように市民が自然に健康になれるような仕組みづくりを市民や皆さんと考えたい。例えば都市だと手前の駅から降りて歩くとか、遊歩道を整備するとかという方法があると思うが、防府市では目的地まで車を使うと思う。そうならないための仕掛け作りができると良いと思う。

最後に、やまぐち健幸アプリを活用している企業も多いというところと、資料 1 の P 4 身体活動・運動の分野で「4 ロコモ該当者の割合」を見ると、50代 60代のリタイアする前の方たちがロコモティブシンドロームに移行しやすいという結果を見て、例えば大企業の退職前の方等に健幸アプリを周知すると良いのではないかと思った。また、他市を見ると、宇部市は「うべポイント」があり、自身の健康づくりに取り組むと最終的にデジタルギフトやクオカード等で還元されるような仕組みがある。防府市でもこういった仕組みができると、いい循環ができるのではないかと思った。

【J 委員】

自分は保育園の給食調理員として働いている。また、子どもたちの食育教室を市内で開講しており、保護者とつながることがとても多い。今後、保護者に関わる際に、市が市民の健康づくりに関するデータをとったり、今日の会議のように、市民が健やかに過ごせるように活動されたりしているというのを伝えていきたいと思う。

また、今健康ポイントの話が出たが、私自身子どもが何人もいると自分のために検診に行くのは、やはり後回しになる。健康への意識を高めているつもりでも行けてない。自分が健康への行動を起こすことで何らかのポイントが溜まり、そのポイントで子どもと外食できるとか、スーパーマーケットでお菓子が

もらえとかがあると、保護者は動きやすいと思う。ケンシンに行くのも、「お母さんは検診でポイント貯めてくるよ。」と子どもと話題にできたりすると行動できるのではないかと思う。もしそのような活動が始まったら、自分はSNSを活用しているので、広めたい。皆さんと協力し、防府市の子どもたちから高齢者までが共に健やかに過ごせるように活動したい。

【議長】

今のお話は参考になることがいっぱいあった。お母さんは忙しいから歯科受診も行けないっていうけれど、何かポイントがあったら行けそうとか、それをSNSで広げるという新しい取組が広がっていくと良いと感じた。

【K委員】

母子保健推進協議会は、「とらいあんぐる」という広報誌を年2回発行しており、基本的な生活習慣やその他健康に関して気を付けることなどについて啓発活動をしている。今月ちょうど47号を発行した。今回は0歳からの予防歯科を記事に載せ、乳児、幼児のいる家庭に配布した。

第二次計画で母子保健推進協議会が関わるのは、(6)－1親のころ、子のころのところ。昨年10月から3歳児健診の案内が家庭訪問から郵送に変わり、訪問の機会が少し減ったが、そのぶん地域で日常の見守りをしっかり行うように心がけている。また、市内14地区で、各地区の特性を生かして子育て支援のためのサークル活動も行っており、0歳児から小学生までが家族で楽しめる企画を作って活動した。喜ばしいことに、父親の参加が年々増えてきた。資料1のP7「1主体的に育児に関わっている父親の割合」を見ても、増加している。年に1回の「わいわいHOFUっ子の集い」は今年度第26回を開催し、200組の親子が楽しみ、とても好評だった。今年度末には防府市母子保健推進協議会40周年の記念誌を発行する。今後も子育て世代に寄り添って見守っていききたいと思っている。

【L委員】

自分としては、高齢福祉課が作成している高齢者保健福祉計画についても興味があり、この内容も今後知りたいと思っている。次回の会議でも良いので、高齢者保健福祉計画の中で高齢者の健康の実態についてまとめているところがあれば、聞かせてもらえればと思う。老人クラブの代表として、令和6年度取組や、今後の取組に関しては、今日提出することになっている別紙1思い記入シートに記載した。

【M委員】

健康づくりについては、県としても力を入れて取り組んでいる。保健所としても市の健康づくりに関する様々なデータを持っているので、これからも市のバックアップを行っていく。また県が主催でやっている地域職域連携推進協議会という働く世代の方々と私たち保健サイドが手を結んで健康づくりを行う取組が10年以上続いている。今日の結果も踏まえ、防府市でどのように実施するかをしっかりと考え、取り組んでいきたい。

【議長】

自殺対策計画を第三次計画に取り入れるため、今回からご参加いただいている山口県公認心理師協会のN委員、一言お願いします。

【N委員】

日ごろは医療に携わっており、希死念慮がある人と話すことがよくある。その中で、やはり睡眠の重要性が一般にはまだ知られていないのかなとよく感じる。第二次計画の(6)-2 みんなのこころの項目で、「睡眠による休養が十分とれている人の割合」が指標となっているのがとてもよかったと思うが、何で睡眠がそんなに大事なのかっていうところの啓蒙をもっと行うと良いと思う。それに関しては、睡眠がとれていないと急激に視野狭窄なり、本当に死にたいとしか考えられなくなるというような展開につながる事が挙げられる。睡眠薬を飲んででも、眠ることで健康状態が改善でき、自殺がわりと速やかに防げるということもある。お酒を飲んで寝るよりも睡眠薬を飲む方が健康と言われていて、そのあたりの理解も進むといいなと思う。

地域との繋がりも非常に重要。自殺に関してはやっぱり孤立が一番怖いと思う。孤立すると自分の狭い視野の中でしか考えられなくなり、死にたいという発想が出たらもうそれ以外考えられなくなり既遂してしまうこともある。気づいて止めてくれるゲートキーパーの存在や、身近な地域の人たちとの繋がりがでも防げるということもあるかもしれないので、今後の取組の中で地域の繋がりと孤立の予防等が増えていくとまた良いと感じた。

【議長】

睡眠薬については、あまり習慣性にならない良い薬が出ている。睡眠はとても大切なので、昨年行った医師会歯科医師会薬剤師会主催の市民公開講座のテーマは睡眠にした。睡眠の大事さについて、これからは皆さんも普及して欲しい。

【副会長】

今日の会議も非常に内容が充実していたと思う。まず市の担当者の説明では、市民の健康状態の現状を知り、今後どういうところを考えていったらいいのかというヒントをいただけた。資料 1 で示されている目標値とアンケート等の結果を比べたらまだまだ目標値に達していないところも多いが、その中身を資料 2 のグラフで世代ごとに見ていくと、目標に達していないけど数値が少し良くなっているところがあったり、逆に取り組まないといけない世代がなかったりし、今後の取り組みの工夫点を考えやすいように情報提供してもらえた。

その後の意見交換では、私は皆さんのお話を聞いて感動した。なぜかというところ「こうしたらいいんじゃないですか。」と市に対して意見を提案するのではなく、ご自身の立場や所属団体で「今後こうしていきたい。」という発言が多かったから。きっとこの会議の内容を皆さんの団体に持ち帰られて、団体ごとに実際に動いていくのだろうなということが感じられて、副会長としても本当にありがたいと思った。

今回の会議では、事務局で第三次計画の素案を作られたものに対して皆さんに御意見をいただくような会になると思う。事務局は素案の中に今日の皆さんからのご意見を盛り込んで欲しい。そして今回の会議で委員の皆さんから現実的に実施できそうか、効果がありそうかなどについて御意見をいただき、第三次計画を策定していただければいいなと思った。

それから最後に、健康づくりは各個々人の責任や努力と言われるが、現在国としてはそこに暮らしているだけで自然に健康になれるような環境づくりや街づくりを目指している。市でも自然に健康になれるような環境づくりが大切になるので、市の方では健康増進課やこども相談支援課だけではなく、健康づくりに関連する市役所の他部署、L 委員が先ほど高齢福祉課が作成している計画のことを知りたいと言われていたが、そのように他部署の健康づくりに関連するような情報を得て、今回の会議でぜひ教えていただきたい。そうすると、委員の皆さんはそれぞれの組織団体の使命や目標、目的があると思うが、健康づくりとそこの部分とを繋げ、さらなる取組を考えやすくなるのではないかなと思う。

(4) その他

【事務局説明】

健やかほうふ 2 1 計画推進・策定委員会今後の予定について
事務連絡

以上により議事終了。